

現場の声を拾うため、困っていることはないかボランティアに質問する宮野さん(右)



モバイルARTサービスの車が保健センターに到着。山あり谷ありの道も多く、20キロの移動に1時間かかることも



郡の病院と保健センターのスタッフが患者の情報を集計。治療に来なくなった人の割合などを調べる



ザンビア
from ZAMBIA

地方の保健センターに巡回に来た郡の病院のチームがHIV／エイズ患者を診察

チーム力で命をつなぐ

HIV／エイズの感染率が高いアフリカ南部の国、ザンビア。地方に住む人々にとっては、すぐに保健医療サービスにアクセスできないのが問題だ。そこで進められているのが、誰もが平等に治療を受けられるための仕組みづくりだ。



病院に行けない！ 地方の人々の苦悩

保健センターの前に、一台の車が止まった。荷台から運び出されたのは、HIV／エイズの治療薬や検査キット。医師や看護師も一緒だ。

「これからは月に2回、ここで治療が受けられるんだ！」

「もう3日も歩いて病院に行かなくてもいいんだね」

待ちかまえていた人々から歓声が上がると。喜びのあまり、ついにはみんなで輪になって踊り出した。

「ここで問題が起きました」
そう話すのは、JICA 専門家の宮野真輔医師(独立行政法人国立国際医療研究センター)。国内外問わず、医師として多くの人を助けたいと、2010年からザンビアでのHIV／エイズ対策に携わっている。

「ザンビアの国土は日本の約2倍。なかなか地方まで保健医療サービスが行き届かないのです。地方の保健センターには、医師はおろか準医師*もおらず、看護師だけのことも。大きな病院まではかなり遠い。これでは地方の人々は治療を受けられないですよ。そのアクセスの悪さが、人々の命を脅かしていた。」

こだわりの サービスの「質」

そこで06年に始まったのが、モバイルARTサービス。郡の中心部にある病院の医師、准医師、看護師、助産師、薬剤師などが地方の保健センターを巡回する仕組みだ。HIV／エイズ患者の診察や血液検査、投薬指導を行い、定期的に治療の効果や薬の副作用などを確認することができる。

ある保健センターのスタッフはこう話す。「以前は薬もなく、治療もできなかったため、毎日のように亡くなる人の姿を見ってきました。でもこのサービスが始まり、

ここはザンビアの首都ルサカから南西へ360キロも離れたカロモ郡、さらに郡の中心部から100キロも離れた保健センターだ。こうした地方にも広がっているのがHIV／エイズ。HIVウイルスに感染することにより、体を守る免疫が機能しなくなってしまう病だ。医学の発達により、薬を継続的に飲めば死に直結するものではなくなった。しかし、アフリカ諸国にはまだまだ薬が行き渡らず、感染が広がり、命を落とす人もたくさんいる。

中でもザンビアは成人の感染率が



保健センターで診察の順番を待つ家族。「郡の病院に行くには山を越えなければなりません。保健センターで治療を受けられるようになって助かっています」

多くの命を助けられるようになった。郡病院のスタッフと治療に当たることで、適切なHIV／エイズのケアを学べる貴重な機会になっています。

このサービスは2つの郡で試験的に導入され、現在はその実績を踏まえて15の郡で展開中。それを可能にしたのは、ザンビアと日本の医療関係者が協働で作成した「国家ガイドライン」。チーム構成、巡回の頻度、診察の内容など、モバイルARTサービスの内容がまとめられた。

さらに宮野さんがこだわったのは、サービスの「質」。「量」を増やしても、その治療の内容が適切でなければ意味がありません」と宮野さん。そこで郡の保健局によるサービスのモニタリングにも力を入れ、質の高いサービスが広まるような仕組みも整えている。

「私の役割は現場の意見が政策をつくる保健省に伝わるよう両者をつなぐこと。感染症に立ち向かうための仕組みを、ザンビアの人々自身の手でつくってほしい。そうすれば今後、もし新たな病気が広まって対応できるはずだからです」と話す。

HIV／エイズの治療をすべての人へ。その目標に向かい、ザンビアと日本が奮闘している。

*医師免許はないが、専門学校などで医学を学び、治療に当たる医療従事者。